

# 平成27年度のコンサルティングの概要

一般財団法人 大阪科学技術センター  
ATAC 運営委員長 梶原 孝生

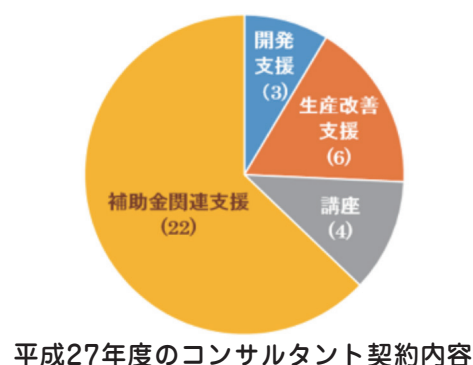
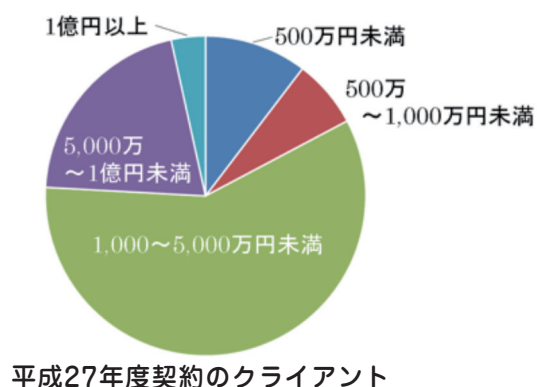


ATACは一般財団法人・大阪科学技術センターの中小企業支援施策の一環として中小企業の技術支援を目的に創設され、本年度で25周年を迎えます。その間、関西圏を中心に全国の多くの企業様からのご要望にお応えすべく幅広く活動を行って参りました。平成27年度を振り返りますと、政府による大胆な金融政策、機動的な財政政策、民間投資を喚起する成長戦略等、経済財政諸政策の推進により、私共が支援している中小企業におきましても、業績が改善する企業様が増加してきているものと考えています。更なる有効な経済政策が継続されることを期待したいところです。

さて、昨年度のATAC活動を総括いたしますと、2名の新会員を迎え入れ、総勢22名の体制で例年通り活発な活動を行い、多くのクライアント様と歩んできた結果、コンサルタント契約34件と例年になく多くの成約をすることができました。クライアント様を資本金で見ると中堅の中小企業様が中心であります。500万円以下の小規模な事業者様から大企業と肩を並べる規模の企業様まで幅広く、多くの企業様と仕事をさせていただきました。内容別では、大学で

の年間を通じての中小企業論の講座を始めとした講師4件、技術開発支援3件、生産技術改善の支援が6件で、例年と同様の内容でありました。それに加え、昨年度は中小企業庁の補正予算でのものづくり補助金の関連で申請書の作成支援、補助事業の推進支援で22件と多くのコンサルタント契約をいただきました。この補助金の申請支援におきましても従来のコンサルと同様に、企業様の規模に関わらず、企業様の中に入り込み、企業様と共に現状の課題の絞り込み、その解決方法、将来展望を討議して作成を行ってまいりました。こうした補助金申請書作成作業の過程で、企業様自身がこれまでは気づいていなかった企業様の特徴、業界での位置づけが明確になったり、また将来計画を考えるよい機会になったり、従来じっくり考えていなかったことが出来たと感謝の声を多くお聞きいたしました。元気のある中小企業を支援するためにも国主導の支援策の更なる充実を今後も期待したいものです。

ATACは現場主義をモットーに25周年を迎えるに相応しい活動を心がけていきます。



## 第21回 社長懇話会記録

### － (株)中央電機計器製作所の見学と講話 －

美しい桜も咲き納めの、平成28年4月15日異業種の経営トップ20名の参加を得て、ATAC主催の第21回社長懇話会を開催しました。

今回は、都島区にある(株)中央電機計器製作所を見学し、畑野会長の「世界をめざす意気込み」を伺う機会を得ました。

#### (株)中央電機計器製作所の事業内容

創立1930年、資本金1千万円、従業員52名（内8割が院卒、大卒の頭脳集団）のシステム提案型企业です。創業以来86年、世の中にない便利な特注システム製品の製造販売を行っています。1台から量産まで、ソフト・ハードの設計・開発・製品をトータルコーディネートし、計測システムや試験機、制御システムをユーザー様にお届けします。尚、平成28年3月16日に経産省「ダイバーシティ経営企業100選」に選ばれ、表彰を受けました。

#### 工場見学

工場に入って最初に目に入るのが、開発中の制御システムとPC、そして、開発技術者集団の姿です。「このシステムは、お客様からの依頼内容をつぶさに分析し、どの制御システムに合致し、どう組み込んでいくかを検討したものです。お客様の「困った」から、ハードウェアの設計とLabVIEWを駆使したソフトウェアの設計、そしてソリューションを見出します。」と説明を受けました。寸法自動測定器、マイクロコロニー自動計数装置、微細欠陥検査装置等の開発現場を見学しました。

見学者の6班36名を、お手数にも関わ

らず懇切丁寧にご案内頂き、各部門においては開発技術者の方々から直接ご説明頂き、誠に有難うございました。

#### 畑野会長の講話

会社経営に於いては、常に世界と日本の情勢、20年後の見通しを考えて行動することが大切です。また、企業発展には、企業連携・国際連携とネットワークづくり、人材獲得が欠かせません。

私は、一期一会を大事にします。例えば、国際線機中でお隣が肘掛を占領している状況です。その時、用意しているおかしを差し出してすすめます。美味しかったのか、自然と親しくなり、話が盛り上がり、和気藹々の内に、やがて肘掛は私の領分になっています。（笑い）企業マッチングやコラボレーションにも相通じるものです。企業連携・人脈づくりは行動中の人間力で培われると確信をもっております。

最後に、会長の座右の銘である「念ずれば夢かなう」そして念じた結果として、「何かで世界一になる」との夢を語られました。意味深いお話しでした。

#### 交流会

講話に於ける感銘がそのまま交流会に持ち込まれ、畑野会長の周りには次々と人の列ができ、各テーブルでは、非常に参考になり今後の社業に活かしたいとの称賛しきりでありました。1時間15分の交流会が非常に短く感じられました。

(株)中央電機計器製作所様には心より御礼申し上げます。

(明石 記)





## 「ネジザウルスの逆襲」

高崎 充弘 著

日本実業出版社発行 初版2015年10月

定価本体1500円+税

皆様は、ネジが錆付いた、あるいはネジ山が潰れた（なめた）ためにネジを外すのに苦労されたことはありませんか。ここに紹介するのは、プロ用作業工具の製造販売を専門とする大阪の中小企業「株式会社エンジニア（高崎充弘社長）」が、全社一丸となって、一般家庭用の「小ネジプライヤー」を開発し大成功を収める物語です。

初代「小ネジプライヤー」は、プロ用工具の商社を通した販売だったので、思うように売れません。困り果てた末、ホームセンターや金物店に一新した小ネジプライヤー「ネジザウルス」を置き、広くお客様に見て頂くことにしました。

詳しくは本書に譲りますが、一般家庭用「ネジザウルス」の成功の秘訣「MPDP」理論が紹介されています。MはMarketing, 始めのPはPatent, DはDesign, 後のPはPromotionの頭文字で、このMPDPの4要素が揃って初めてヒット商品が生まれる理論です。

知的財産権は重要な武器です。当社では従業員30名中18名が知財技能士ですし、筆者は

知的財産教育協会の中小企業センター長でもあります。ネジザウルス成功の鍵はデザインにもあり、2015年のGood Design Awardを受賞いたしました。このような全社員の力の結集が事業成功の基と評価され、第49回グッドカンパニー大賞特別賞受賞に繋がっています。

ATACでは、過去OB活用組織全国会議と定期講演会に著者をお招きし、「MPDP」理論伝播のお手伝いをしてきましたが、このたびの上梓で多くの読者がその理論に接することが出来るようになりました。一人でも多くの方が手に取られることを願っております。

（長田 記）



### ATAC ひと言

## 第14回 ATAC交流会に参加して

ATACは1991年に発足し今年で設立25年を迎えます。ATACグループの団体としては、1999年にATAC・MATE奈良、2001年にATAC和歌山 ATAC岡山、2003年にはATACひろしまが発足し現在では5グループを数えます。毎年全グループが集って中小企業に対する支援の情報共有、運営に対する意見交換をし合っています。今年は4月8～9日に広島県呉市に集まり第14回目のATAC交流会を実施致しました。

各グループからの活動報告や積極的な意見交換が行われ、今年度の主催者であるATACひろしまからは「ものづくり支援（技能系支援）」「ひろしま医療関連産業クラスター形成に向けた支援事業の取り組み状況」の事例報告が行われました。各地のATACは各地域の特色があるものの成功事例を共有することにより各ATACの活動に活かしていくことが期待され、今後

も毎年、交流会を継続していくものとしています。

2日目は呉市にある大和ミュージアム（呉市海事歴史科学館）や実物の巨大潜水艦を陸上展示してある「てつのかじら館」を参加者で見学しました。呉は、戦艦「大和」を建造した日本一の海軍工廠のまちとして栄え、戦後はその技術を活かし世界最大のタンカーを数多く建造するなど、日本が戦後わずか10年ほどで世界一の造船国へ発展する一翼を担ってきた歴史を学ぶことができました。

（田中 記）





# 大阪科学技術センター

## ATAC25周年記念講演会



### 世界を照らすLED

2014年ノーベル物理学賞 受賞者  
名古屋大学教授 天野浩氏



### 強みを活かす ～違いを超えた人財育成～

自光株式会社  
代表取締役社長 吉村加代子氏

ATACは(一財)大阪科学技術センターが1991年に設立した中小企業の技術支援組織で、大企業の定年退職技術者が長年培ってきた技術の知識、経験、ノウハウを活かして中小企業の支援をしようとしている集団です。今年で設立25周年になりますが、その間の支援件数は約800件、支援企業数220社にも及びます。

ここに設立25周年を迎えるに際しまして、皆さまへの感謝の気持ちを込めて記念講演会を開催いたします。

平成28年

# 9月29日(木)

- 参加人数 300名(受付先着順)
- 参加費 1,000円 当日、会場受付にて申し受けます。
- 参加申込・問合せ先

(一財)大阪科学技術センター  
〒550-0004 大阪市西区靱本町1-8-4  
技術振興部 ATAC事務局  
TEL :06-6443-5323  
FAX :06-6443-5319  
E-mail : atac@ostec.or.jp

URL: <http://www.atac.ne.jp>

時間 13:30 — 17:00  
場所 大阪科学技術センター  
8階大ホール

主催: 一般財団法人大阪科学技術センターATAC

後援: 経済産業省 近畿経済産業局